



(Drug Information News)
NO. 285
2008年9月

徳山医師会病院 薬局
TEL: 0834-31-7716
FAX: 0834-32-5349
e-mail: yaku@tokuyamaishikai.com

薬局ホームページアドレス <http://www.tokuyamaishikai.com/yaku/index.htm>

1. お知らせ

プロトピック軟膏0.1%（アステラス）の【警告】が一部分変更されました。（下線部——変更箇所、二重線——削除箇所）

- 【警告】
1. 本剤の使用は、アトピー性皮膚炎の治療法に精通している医師のもとで行うこと。
2. マウス塗布がん原性試験において、高い血中濃度の持続に基づくリンパ腫の増加が認められ
て^る。また、本剤との関連性は明らかではないが、~~外~~に^るリンパ腫、皮膚がんの発現が報告されている。本剤の使用にあたっては、これらの情報を患者に対して説明し、理解したことを確認した上で使用すること。
3. 潰瘍、明らかに局面を形成している糜爛に使用する場合には、血中濃度が高くなり、腎障害等の副作用が発現する可能性があるので、あらかじめ処置を行い、潰瘍、明らかに局面を形成している糜爛の改善を確認した後、本剤の使用を開始すること。

点滴静注用ミノマイシンの供給停止について

院内LANにも載せましたが、現在、点滴静注用ミノマイシンは輸入した充填済みバイアルの国内における検査工程で、バイアル本体に染み様の擦れ傷が認められ、一時供給が停止していました。安定供給の時期は不明となっていましたが、この度後発品の「ミノサイクリン塩酸塩点滴静注用100mg」が供給可能となります。ミノマイシン処方の際は宜しくお願ひします。

2. 医薬品・医療用具等安全性情報

(No.249)2008年8月 厚生労働省医薬食品局 【概要】

1. 重要な副作用等に関する情報

【1】臭化チオトロピウム水和物

当院採用品：スピリーバ吸入用カプセル18μg

<<使用上の注意（下線部追加改訂部分）>>

[副作用（重大な副作用）]

イレウス：イレウスが発現することがあるので、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。

3. 新規収載医薬品

2008年9月12日薬価収載

ミコブティンカプセル150mg	
製造・販売	ファイザー
分 類	内用薬：結核症、マイコバクテリウム・アビウムコンプレックス（MAC）症等を含む非結核性抗酸菌症、HIV感染患者における播種性MAC症の発症抑制を効能・効果とする新有効成分医薬品（新有効成分）
一般名	リファブチン
薬価	150mg1カプセル 753.00 円
効能・効果	<p><適応菌種> 本剤に感性のマイコバクテリウム属</p> <p><適応症> 結核症、マイコバクテリウム・アビウムコンプレックス（MAC）症等を含む非結核性抗酸菌症、HIV感染患者における播種性MAC症の発症抑制</p>
用法・用量	<p>結核症 通常、成人にはリファブチンとして150mg～300mgを1日1回経口投与する。多剤耐性結核症にはリファブチンとして300mg～450mgを1日1回経口投与する。 マイコバクテリウム・アビウムコンプレックス（MAC）症等を含む非結核性抗酸菌症の治療 通常、成人にはリファブチンとして300mgを1日1回経口投与する。 HIV感染患者における播種性MAC症の発症抑制 通常、成人にはリファブチンとして300mgを1日1回経口投与する。</p>
アトワゴリバース静注シリンジ3mL 6mL	
製造・販売	テルモ
分 類	注射薬：非脱分極性筋弛緩剤の作用の拮抗を効能・効果とする新医療用配合剤（新医療用配合剤）
一般名	ネオスチグミンメチル硫酸塩・アトロピン硫酸塩水和物
薬価	3mL1筒 404 円 6mL1筒 615 円
効能・効果	非脱分極性筋弛緩剤の作用の拮抗
用法・用量	通常、成人には1回1.5～6mL（ネオスチグミンメチル硫酸塩として0.5～2.0mg、アトロピン硫酸塩水和物として0.25～1.0mg）を緩慢に静脈内注射する。なお、年齢、症状により適宜増減する。
マクジエン硝子体内注射用キット0.3mg	
製造・販売	ファイザー
分 類	注射薬：中心窩下脈絡膜新生血管を伴う加齢黄斑変性症を効能・効果とする新有効成分医薬品（新有効成分）
一般名	ベガブタニブナトリウム
薬価	0.3mg90 μL1筒 123,457 円
効能・効果	中心窩下脈絡膜新生血管を伴う加齢黄斑変性症
用法・用量	ベガブタニブナトリウム0.3mg（ベガブタニブのオリゴヌクレオチドとして）を6週ごとに1回、硝子体内投与する。
アーピタックス注射液100mg	
製造・販売	メルクセローノ
分 類	注射薬：EGFR陽性の治癒切除不能な進行・再発の結腸・直腸癌を効能・効果とする新有効成分医薬品（新有効成分）
一般名	セツキシマブ（遺伝子組換え）
薬価	100mg20mL1瓶 35,894 円
効能・効果	EGFR陽性の治癒切除不能な進行・再発の結腸・直腸癌
用法・用量	通常、成人には週1回、セツキシマブ（遺伝子組換え）として、初回は400mg/m ² （体表面積）を2時間かけて、2回目以降は250mg/m ² （体表面積）を1時間かけて点滴静注する。なお、患者の状態により適宜減量する。

ゾシン静注用2.25 4.5	
製造・販売	大鵬薬品工業・大正富山医薬品
分類	注射薬：肺炎等を効能・効果とする新医療用配合剤(新医療用配合剤)
一般名	タゾバクタムナトリウム・ピペラシンンナトリウム
薬価	(2.25g)1瓶 1,792 円 (4.5g)1瓶 2,668 円
効能・効果	<p><適応菌種> 本剤に感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、腸球菌属、モラクセラ(ブランハメラ)・カタラーリス、大腸菌、シトロバクター属、クレブシエラ属、エンテロバクター属、セラチア属、プロテウス属、プロビデンシア属、インフルエンザ菌、緑膿菌、アシнетバクター属</p> <p><適応症> 敗血症、肺炎、腎孟腎炎、複雑性膀胱炎</p>
用法・用量	<p>・敗血症及び肺炎の場合 通常、成人にはタゾバクタムナトリウム・ピペラシンンナトリウムとして、1回4.5g(力価)を1日3回点滴静注する。肺炎の場合、症状、病態に応じて1日4回に增量できる。なお、必要に応じて、静脈内注射することもできる。</p> <p>通常、小児には1回112.5mg(力価)/kgを1日3回点滴静注する。なお、必要に応じて、静脈内注射することもできる。また、症状、病態に応じて1回投与量を適宜減量できる。ただし、1回投与量の上限は成人における1回4.5g(力価)を超えないものとする。</p> <p>点滴静注に際しては補液に溶解して注射する。また、静脈内注射に際しては注射用水、生理食塩液又はブドウ糖注射液に溶解し、緩徐に注射する。</p> <p>・腎孟腎炎及び複雑性膀胱炎の場合 通常、成人にはタゾバクタムナトリウム・ピペラシンンナトリウムとして、1回4.5g(力価)を1日2回点滴静注する。症状、病態に応じて1日3回に增量できる。なお、必要に応じて、静脈内注射することもできる。</p> <p>通常、小児には1回112.5mg(力価)/kgを1日2回点滴静注する。なお、必要に応じて、静脈内注射することもできる。また、症状、病態に応じて1回投与量を適宜減量できる。さらに、症状、病態に応じて1日3回に增量できる。ただし、1回投与量の上限は成人における1回4.5g(力価)を超えないものとする。点滴静注に際しては補液に溶解して注射する。また、静脈内注射に際しては注射用水、生理食塩液又はブドウ糖注射液に溶解し、緩徐に注射する。</p>
サイモグロプリン点滴静注用25mg	
製造・販売	ジエンザイム・ジャパン
分類	注射薬：再生不良性貧血並びに造血幹細胞移植の前治療及び急性移植片対宿主病を効能・効果とする新有効成分医薬品(新有効成分)
一般名	抗ヒト胸腺細胞ウサギ免疫グロブリン
薬価	25mg1瓶 37,460 円
効能・効果	<p>1) 中等症以上の再生不良性貧血</p> <p>2) 造血幹細胞移植の前治療</p> <p>3) 造血幹細胞移植後の急性移植片対宿主病</p>
用法・用量	<p>1) 通常、1日1回体重1kgあたり抗ヒト胸腺細胞ウサギ免疫グロブリンとして2.5~3.75mgを、生理食塩液又は5%ブドウ糖注射液500mLで希釈して、6時間以上かけ緩除に点滴静注する。投与期間は5日間とする。</p> <p>2) 通常、1日1回体重1kgあたり抗ヒト胸腺細胞ウサギ免疫グロブリンとして2.5mgを、生理食塩液又は5%ブドウ糖注射液500mLで希釈して、6時間以上かけ緩除に点滴静注する。投与期間は造血幹細胞移植5日前より4日間とする。</p> <p>3) 通常、1日1回体重1kgあたり抗ヒト胸腺細胞ウサギ免疫グロブリンとして2.5~3.75mgを、生理食塩液又は5%ブドウ糖注射液500mLで希釈して、6時間以上かけ緩除に点滴静注する。投与期間は5日間とする。</p>

ナゾネックス点鼻液50 µg56噴霧用	
製造・販売	シェリング・プラウ
分類	外用薬：アレルギー性鼻炎を効能・効果とする新有効成分含有医薬品(新有効成分)
一般名	モメタゾンフランカルボン酸エステル水和物
薬価	5mg10g1瓶 1,947.40 円
効能・効果	アレルギー性鼻炎
用法・用量	通常、成人には、各鼻腔に2噴霧ずつ1日1回投与する(モメタゾンフランカルボン酸エステルとして1日200 µg)。
ディフェリングル0.1%	
製造・販売	ガルデルマ-塩野義製薬
分類	外用薬：尋常性ざ瘡を効能・効果とする新有効成分医薬品(新有効成分)
一般名	アダパレン
薬価	0.1%1g 117.70 円
効能・効果	尋常性ざ瘡
用法・用量	1日1回、洗顔後、患部に適量を塗布する。

4 . Q & A コーナー

内服可能な患者(内服している薬あり)にオメプラール注を施行してよいか?
保険で切られる可能性大。

アセトアミノフェン、ロキソニンで排尿障害があるか?
ない。

ビスフォスフォネート製剤とエピスタ錠は併用してもよいか?
併用禁忌ではないが、過度に骨代謝を抑制する懼れがあるのでお勧めできない。

5 . 抜け毛

秋は他の季節と比べて抜け毛が多くなる人が大勢いるようです。また、抜け毛は季節の変わり目、特に秋口に多くなるそうです。今回は抜け毛についての話題を載せてみたいと思います。

原因

頭髪は頭皮にある毛母細胞で作られ、その寿命は4~7年ほどです。毎日成長を続けて、1カ月に約1.2cmほど伸びます。成長が止まってもすぐ抜けるわけではなく、その間に新しい毛を作る準備がなされ、古い毛が抜けた後、新しい毛が成長を始めます。しかし、何らかの原因でそのまま新しい毛が生まれてこない場合があります。

脱毛症の原因には諸説ありますが、男性ホルモンであるテストステロンの過剰分泌とともに、5-リダクターゼという酵素が介在しているという説が有力です。

髪の毛が生えている毛包(もうほう)には、皮膚を保護する皮脂を分泌する皮脂腺があります。5-リダクターゼは皮脂腺に多く存在する酵素で、テストステロンに水素を結合させてデヒドロテストステロンに変えます。このデヒドロテストステロンが毛母細胞を傷つけ、発毛を阻害するのです。

また、頭皮を清潔にしておかないと、皮脂で毛包がつまり、髪の毛に栄養を送る毛細血管の流れが悪くなってしまい、髪の毛が抜けやすくなります。

髪の毛が寿命ではなく、毛根部が破壊されることで抜けてしまうのが、円形脱毛症です。通常、10円玉ほどの大きさで円形に毛が抜けます。最初は1カ所だった脱毛部分が数カ所に増え、やがて頭全体に広がる全頭型や、まゆ毛やまつ毛、体毛など頭髪以外にまで広がる汎発型(悪性円形脱毛症ともいう)になることもあります。

その原因は不明ですが、ストレスや自律神経失調症、甲状腺などのホルモン異常、自己免疫説などが挙げられています。

解消・予防

抜け毛を防ぐには、頭皮を清潔に保つことが第一です。頭髪は皮膚の角質が分化して生まれるものなので、頭皮の健康維持も大切です。髪の毛に栄養を送る毛細血管の流れをよくするには、ビタミンEやイチョウ葉エキスが有効です。

毛髪促進には、髪の毛の原料となるNAC（N-アセチルシステイン）やプロテインの補給も必要です。

また、5'-リダクターゼの分泌を抑えるものにはノコギリヤシエキスがあります。

髪の発育には亜鉛、鉄、ビオチン、葉酸など多くの栄養素が関わるため、マルチビタミン・ミネラルで補給したいものです。

ノコギリヤシ

ノコギリヤシエキスは5'-リダクターゼに働きかけ、DHT（ジヒドロテストステロン）が生成されるのを抑制します。同時に前立腺にも作用し、DHTが前立腺の細胞内に取り込まれるのを防いでいます。5'-リダクターゼの働きを阻害することで「脱毛の予防に役立つ」「前立腺肥大化を防ぐ」という効用を期待できるわけです。よって、前立腺肥大による排尿困難や頻尿、などの障害に対しても、改善効果があると言われています。

最近では、脱毛症に対する医薬品も発売されています。

発毛・育毛、脱毛の進行予防に一般用医薬品としておなじみ大正製薬のアップ・アッププラス（男性用発毛剤）、アップレディ（女性用発毛剤）もそのひとつです。

もともとアップ成分のミノキシジルは、米国アップジョン社が開発した高血圧治療のための内服薬でしたが、患者に発毛効果が認められたことから、現在では、外用発毛剤として世界各国で使用されています。

また、医療用医薬品としてはプロペシア錠があります。

AGA（Androgenetic Alopecia）：「男性型脱毛症」・・・AGAには医薬品でプロペシア錠（フィナステリド）が処方可能となっています。

プロペシア錠・・・前立腺肥大や前立腺がんの治療薬として開発され、その副作用として異常発毛があつたことから発毛剤として使用されるようになりました。

AGAの治療薬としては効果と安全性が認められた世界ではじめての医療用医薬品です。（フィナステリドは、5'-還元酵素II型を選択的に抑制することによりテストステロンからジヒドロテストステロンへの変換を阻害し、発毛作用を示すものと考えられます。）

男性成人には、通常、フィナステリドとして0.2mgを1日1回経口投与します。（1日1mgまで）

男性における男性型脱毛症のみの適応で女性に対する適応はありません。

20歳未満での安全性及び有効性は確立されていません。

3ヶ月の連日投与により効果が発現する場合もありますが、効果が確認できるまで通常6ヶ月の連日投与が必要です。効果を持続させるためには継続的に服用します。なお、增量による効果の増強は、確認されていません。

本剤を6ヶ月以上投与しても男性型脱毛症の進行遅延がみられない場合には投薬を中止します。また、6ヶ月以上投与する場合であっても定期的に効果を確認し、継続投与の必要性について検討します。

参照：日本サプリメント協会

プロペシア添付文書

大正製薬ホームページ